

第 17 回足利市学校教育環境審議会 会議概要 (公開部分のみ)

○日 時 令和 5 (2023) 年 8 月 18 日 (金) 10:00~11:49

○場 所 足利市役所教育庁舎 4 階会議室

○出席者

(1) 委 員 12 名 / 13 名

人見会長、岩田副会長、中島委員、岡村委員、橋本委員、高木委員、源田委員
長谷川委員、前田委員、沼田委員、古川委員、高橋委員

(2) 事務局 14 名

田口教育次長

【教育総務課】石井課長、亀山主幹、藤生指導主事、川端主任

【生涯学習課】齋藤課長、横田主幹

【学校管理課】腰高課長、本田主幹、近藤主幹

【学校給食課】清水課長

【学校教育課】岡部課長、片平主幹

【教育研究所】真下次長

(3) オブザーバー

須藤教育長

株式会社ファインコラボレート研究所 (オンライン参加)

○会議次第

1 開 会

2 議 題

(1) 足利市立小・中学校の学校教育環境の充実に関する答申 (素案)
について

3 その他

(1) 足利市立小・中学校の学校教育環境の充実に関する答申 (素案) の最終
確認について

(2) 第 18 回足利市学校教育環境審議会 (9 月 27 日開催) について

4 閉 会

○会議の公開について

「開会」「議題 (1)」

※ ただし、議題 (1) の答申 (素案) ・第 3 章の 7、8 に関する部分は「非公開」

○傍聴者

0 名

○会議録

1 開 会

※会議の公開・非公開について

- ・議題（1）は公開 ※ただし、一部非公開あり

2 議題（1）足利市立小・中学校の学校教育環境の充実に関する答申（素案） について **公開（一部非公開）**

- 事務局 **資料1** 足利市立小・中学校の学校教育環境の充実に関する答申（素案）、**資料2** 「諮問事項2」に係る質疑応答の結果 の内容について事務局より説明。
- 会長 本日はじめてお示しする部分も含まれるので、率直にご意見やご質問等いただければと思う。最初に「はじめに」と「おわりに」の部分についてお願いしたい。
- 委員 「はじめに」について、内容はとてもわかりやすく見やすいと思うが、「足利市教育委員会が実施したアンケート調査によって把握した」とあるけれど、どのようなアンケート調査なのか、ぱっと見たところ、どのような調査がされたのか、これだとわかりかねる。ここに*というのを見た目的に少しおかしい書き方だと思うけれど、どのようなアンケート調査かというのをわかりやすくした方が、どのような意見を求められたのかわかると思った。
- 会長 事務局で検討していただきたい。ご指摘のとおり、何を参考にしたというのがわかるように表現を工夫してほしい。
- 委員 「はじめに」について、3段落目・2行目後半にある「変化が著しい予測困難なこれからの時代」という言葉が引っかかった。その前段に「人口減少や少子化が進み」という文言があり、この答申の骨子が、子どもたちに適切な教育環境を与えるためには、学校の学級数を増やしていくというような、その根拠として「少子化」や「人口減少」という傾向があると言っているが、「また」ということはこれも要因になる。変化が著しいから将来は予測困難ということは当たり前だけれど、この「予測困難」の内容に、この答申の要因として、どのようなことが含まれるのかわからなかった。
- 会長 現状の文章を大きく変えた方がいいというよりは、少し引っかかるという印象か。私見になるが、一番大切な部分は同段落・4行目にある「主体的な学びを実現する教育環境」だと思う。これは学習指導要領でも謳われているものであり、「待ちの姿勢では駄目だ」「切り開いていくような姿勢を持つべきだ」ということが国から言われているけれど、その具体的な姿が「学校の中で主体的な学びを実現するような授業」であり、「その周りの教育活動」である。何でそのようなことが求められるかという、やはり厳しい時代を

たくましく生きていってほしいということの枕詞的にこの「予測困難」や「変化の激しい・著しい」という言葉があると解釈している。本答申あるいは議論する中で、明確な根拠というよりは社会状況として与えられてしまっている条件と私は考えている。修正するかどうか預からせていただくが、このままになるかもしれないので、お含みおきいただきたい。

会長 「第1章 答申に当たって」について、何かご意見やお気づきの点があればお願いしたい。

委員 (特に意見なし)

会長 「第2章 諮問事項1に対する答申」について、何かご意見やお気づきの点があればお願いしたい。

副会長 15頁・課題・2つ目の○について、「ICT教育の推進のための専門的知識をもつ人材の確保や」と書いてあるが、知識だけでなく、「専門的知識や技術」と入れた方がいいと思った。同頁・方向性・2つ目の○にも「専門的知識や技術」と入っている。もう1点、同頁・方向性・1つ目の○について、「加配教職員の増員を国や県に要望していく」とあるが、「加配」という言葉が一般の方にはわからないと思うので注釈が必要だと思った。

会長 副会長からいただいた意見について、会長判断となるが、1つ目の「知識や技術」は、課題と方向性が対になる方が読んでいても正確かと思うので、「専門的知識」の後に「や技術」という三文字を入れる方が適切と思っているが、いかがだろうか。

委員 (問題なし)

会長 2つ目の「加配」という言葉だが、ご指摘のとおり、伝わりにくい可能性があるので、事務局で表現あるいは注釈を検討するというところでよろしいか。

委員 (問題なし)

副会長 21頁・課題・1つ目の○について、「すべての児童生徒が支障なく安心して学校生活を送ることができる環境を整備する必要があります」とあるが、「安心して」の前に「安全で」と入れた方がよりいいと思った。やはり教育は、施設面あるいはハード面でも安全な状況を作ってやって安心するというふうに捉えた。

会長 これも入れる方向でよろしいか。

委員 (問題なし)

副会長 23頁・方向性・1つ目の○について、「『地域の教育力』と『学校の活力』が相互に補完し合う地域と学校の協働関係について」とあるが、学校も「活力」ではなく「教育力」だと思った。文科省がどのように表現しているかわからないけれど、やはり「家庭の教育力」「学校の教育力」「地域の教育力」であり、「活力」よりも「教育力」の方がいいと思った。他頁にもこの「活力」がよく出てくるので、全体を見渡して整理する必要があると思った。

- 会長 事務局で国の資料等を確認していただきたい。この言葉が資料等にあれば、このままでもいい。「学校の活力」という表現の該当箇所が複数あると思うので、そこも「学校の教育力」とした方がより正確であれば、そのように修正していただく。そうでなければ、このままということで次回までに確認をお願いしたい。
- 会長 「第3章 諮問事項2に対する答申」について、何かご意見やお気づきの点があればお願いしたい。項目の7と8は非公開とするので、この後にご意見をいただく。先程説明があったとおり、前回まで「留意事項」は第4章としており、別の章立としていたが、第3章の中に含めた方が繋がりがいいということで、項目の9としている。
- 委員 感想で申し訳ないが、この53頁の「留意事項」に関しては、このような形が非常にいいのではないかと思った。特に(1)・2つ目の○で、複数回、子どもたちが再編を経験しないということは、この審議会、委員の共通認識であり、共通理解だと思っている。それがきちんとここに明記されたということは、非常に評価したいと思っている。あわせて、再編を契機に分散進学を解消したいという強い思いが私たちの中にあっただと思うが、先程、事務局から説明があったように、45頁でわかりやすく表現されているということで非常にいいのではないかと思った。もう1つ私たち委員の強い思いとしては、現在、何校かで複式学級が編制されており、それも早急に解消をさせたい、解消してほしいという部分も、学校規模のセクションに記載されているので、そのようなことから私たちの強い思いも答申に反映されているという形になっているので大変評価したいと考えている。
- 会長 ご指摘のとおり、複数回、再編を経験させないということは、委員の総意と言っていいと思う。その他、53頁・(3)・2つ目の○について、1つ目の○には、これまでの地域の関係を発展させていくという大事な部分が入っている。その上で、2つ目の○・4行目に「より丁寧な」ということが書いてあるので、再編に当たっては、学校と地域との間でしっかりと話し合いを進めていくことが肝要ということがメッセージとして入っている。
- 副会長 小規模特認校の部分で文科省の手引きの中に書かれている文章だと思うけれど、39頁・上から4つめの・にある「教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる」という表現に引っかかっている。小規模校特有のことであり、子どもと接する機会が多い、人数が少ないからできるのかもしれないけれど、「心理的な距離が近くなりすぎる」ということは、大いにいいことではないかと感じている。その子の気持ち、その子が悩んでいることかがわかると、マイナスにもなりかねないけれど、これはいいかなと思った。近くなった方がいいと思う。これは事務局の言葉ではなく、文科省の手引きの中にある言葉だが、カットした方がいいと思った。
- 会長 残しておいても問題ないというご意見とカットした方がいいという意見があるが、いかがだろうか。38頁に課題・問題点として、こう

いう部分があると例示されているものだが、「近くなりすぎる」という表現が問題点なのか、そうではないのかというニュアンスとなる。

- 委員 文科省の手引きで述べられているということで、いくつか挙がっていて、他の項目についても、少なくともどうにかなる、効果がないわけではないと個人的に思う部分はあるが、ご指摘の部分に関しては、足利市教育委員会事務局が出している「学校教育指導計画」に足利市の教育の指針ということで、人権教育、特別支援教育、個に寄り添ったという部分があり、とにかく目の前の1人の子に寄り添うということがかなり強く挙げられているので、足利市としては指導計画の目標と齟齬が生じてしまうと思うので、私もこの部分はカットしてもいいという気がした。
- 会長 委員からカットしてもいいのではないかとということである。カットしても例示としては複数挙がっているので問題ないと思うが、これが後々の内容に影響があれば、残さなければならない。
- 委員 文科省の手引きで示されていることだと思うが、保護者としては、単純に「児童生徒数が少ない学級は教育効果が下がる」などマイナスに読めてしまい、実際に通わせている保護者からすると、効果が下がってしまう学校にいるように感じ取れてしまうと思った。36頁・(2)・表1にある「課題」は、保護者として納得できると思うけれど、デメリットが通っている子どもに対して、あまり良くない表現をしすぎていると感じた。「心理的な距離が近くなりすぎる」というのは、私は近くなった方がいいと思うけれど、「下がる」などの表現は、現在通っている子どもや通わせている保護者から見て気持ちの良いものではないと思った。また、28頁・課題・2つ目の○にも同じような部分があり、「理解することなく、『友達が行くから』『自転車で通えるから』など、安易な」という文章について、実際は、ここに挙がっていることも重要だと思っている。友達が行くということも、その子にとってはとても大切なことであり、あえてマイナス、ダメというふうには書かなくてもいいと思った。自転車で通うということはいいが、友達がいるということはその子にとってとても大切なことである。実際、小規模校に通っている子どもがこれを見ることもあるので控えていただけるとありがたいと思った。
- 会長 39頁・上から4つ目の・について、確認したい。「教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる」について、「近くなる」ではなく「なりすぎる」ということで、文科省の手引きでは、課題となっているが、複数の委員からネガティブな印象を与えるのではないかとご指摘があったので、私からの提案になるが、この文章を削除する方向で考えたいと思う。事務局にも確認だが、ここを削除しても特段問題ないと思ひ提案しているが、大丈夫だろうか。
- 事務局 (問題ない)
- 会長 やはり残しておいた方が、他頁の内容と整合性がとれる場合は、次回お願いしたい。また、36頁・(2)・表1・生活面に「児童生徒相互の人間関係が深まりやすい」とあり、ここは生徒同士のこと

なっているので、教職員とは別だが、「深まりやすい」ということがよきで入っているので、確かに「近くなりすぎる」が少し矛盾する印象を与えるかもしれないので、ここの関係からも削除する方向で賛同したところである。それから28頁・課題・1つ目の○について、事務局に確認だが、何かの根拠に基づき、このような生徒がいるとしているのだろうか。例えば、アンケートや小規模特認校に関する聞き取りなど、理由があるということであればこのままでいいと思うが、余程大きな問題がなければ、書いてあった方が、課題の認識ということで、最終段階でもあり大きく修正を入れるのはどうかと思う。この文章を入れた方がいいと判断した経緯などがあれば教えていただきたい。

事務局 28頁・課題・1つ目の○について、ご指摘の部分だが、特にアンケートで書いてあるといったことではなかった。現場からの聞き取りの中で、そういった子がいるという声を集めたものである。このような表現になっているのは、小規模特認校の本来の趣旨というのは、そういったことではなく、基本的には色々な事情で自分の学区の学校に行くのが困難に感じる子がいることに比べれば、奥深い部分は見えないが、表面的な部分として見えたと思っている。

委員 確かに「安易」というのは、引っかかる言葉という感じは受ける。マイナスイメージが大きいけれど、先程、事務局から話があったように、趣旨と違うということだと思うので、「安易な」ではなく、「友達が行くから」「自転車で通えるから」というのは、趣旨と異なるということだと思うので、「など趣旨と異なる理由で」や「目的と異なる理由で」という表現ならば、特に問題ない気はする。

会長 今の委員の意見を「提案」と取らせていただき、皆様に確認したい。提案のとおり、「安易な」という3文字を「趣旨と異なる」と置き換えるということではいかがだろうか。子どもらしい理由も例示してあった方が、確かに伝わりやすい。「安易な」という3文字を「趣旨と異なる」という6文字に置き換え、「趣旨と異なる理由で」と繋げるという修正でお願いしたい。

副会長 41頁・(1)・4つ目の○にある「土曜日授業における取組の継続が困難であり」について、どのような状況なのか。

事務局 小規模特認校には、学校の特色ある教育の1つとして、土曜日授業を行っている。この土曜日授業を行うに当たり、年10回などの計画を立てている。実際、それを行うためには、当然、教員も関わっており、土曜日に授業を行うためには、割り振りというものを取らざるを得ないという状況は、土曜日授業が始まった時から行っているところである。この部分について、改革等も色々行っているが、地元の方を招いて講座をしたり、災害について学んだりという部分で、教員が複数名出ざるを得ないというような状況もあり、後で振替する時に全員が同時に休んでしまうと、色々な影響が出てくる。この調整が非常に難しく、回数を10回から8回にするなど、子どもに十分学んでもらうためのカリキュラムと教員の超過負担にならないようにするための工夫とのバランス調整が非常に難しくなってきてい

- 事務局 ということである。
- 事務局 先程の追加説明になるが、教員の面について、説明したが、中学生ということで、クラブ活動など子ども自身の個人的な活動の広がりもあり、参加が難しくなったりするというような現状もある。
- 会長 教員と子どもたちの両面ということで説明があった。子どもたちの面に関することは2行目の「等」に含まれているということで問題ないと思う。現状の文章では、1行目の後半に教員側の説明があり、「難しさ等により」と、それ以外の要件や子どもたちの様子なども含まれると思うので、新たな表現は加えず、現状の表現のままでもいいかと思っています。よろしいでしょうか。
- 委員 (問題なし)
- 副会長 53頁・(3)・2つ目の○について、最初は「地域住民の理解と協力を得ながら、丁寧な」という表現に「より」が追加された。私はこの表現の方がいいと思っている。振り返ると、平成の初期の頃に旧市内の7つの学校を4つにするという学校編成があったと思うが、その時に各学校の地域、保護者、教員から色々なご意見をいただいた。たまたま1つの学校の地域で訴訟にまで至ったということもあるので、今回は33校全体を見た長期にわたる大きな計画だと思うので、「より丁寧」という言葉が適していると思っている。33校の小学校、中学校、色々な方がいらっしゃるのでも、否定的な意見も出てくるかもしれないが、そういう意味でも、「より丁寧」な対応で地域の方々とやり取りする必要があると思う。